

#### 4-(2)-① 平成 31 年度 財務の概要

##### 1) 概況

平成 31 年度決算では学生生徒等納付金が 3,070 百万円と前年度から 76 百万円増加し、過去最高となった。事業活動収入計は、経常費補助金が前年度より 28 百万円減少したものの、付随事業収入は過去最高の 227 百万円となり、昨年度の 3,732 百万円から 80 百万円増加し 3,812 百万円となった。

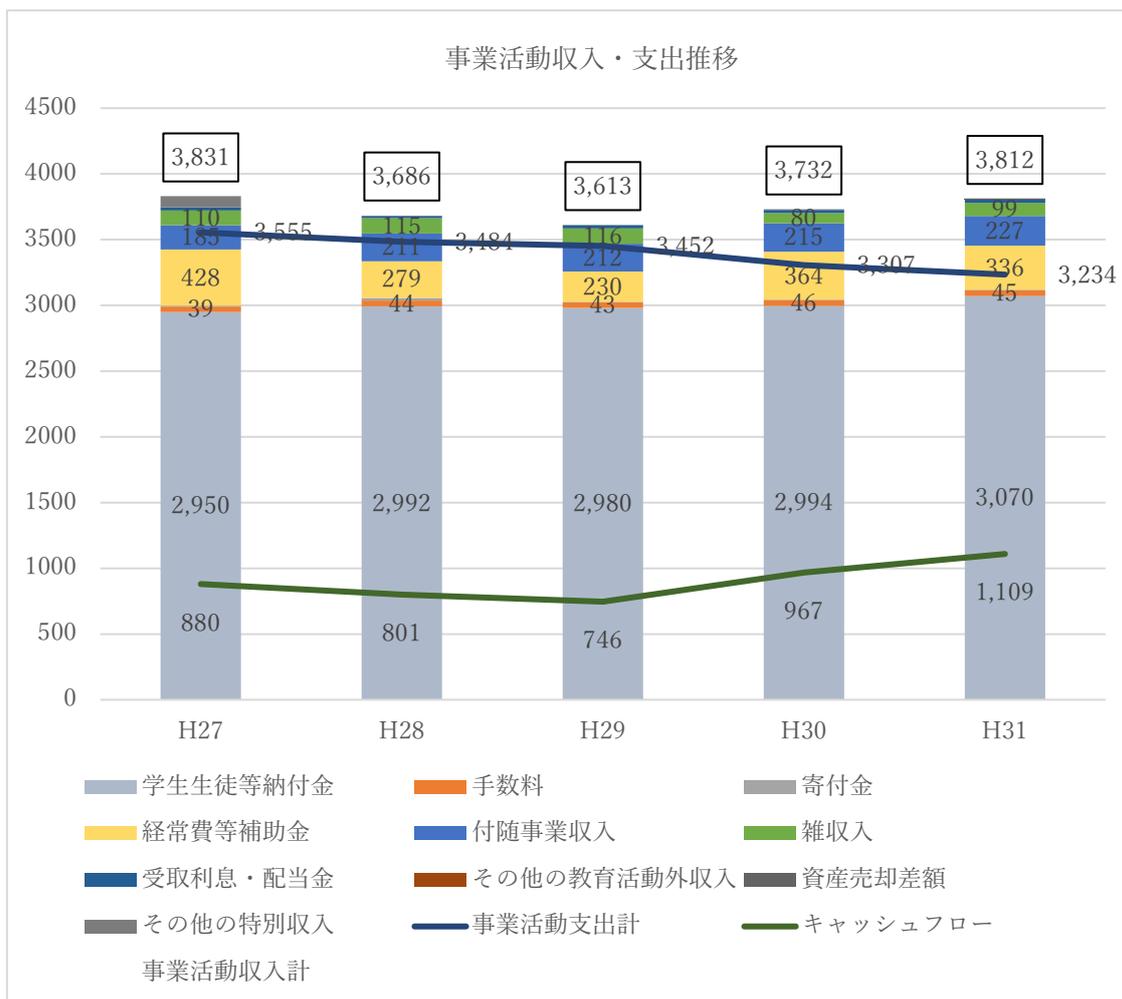
事業活動支出計は前年度とほぼ同水準の 3,235 百万円となり前年度から 72 百万円減少した。

基本金組入前当年度収支差額は 578 百万円と 11 年連続プラスとなり、事業活動収入計比 15.0% (前年度:11.5%) と増加している。

キャッシュフローは 1,110 百万円となり事業活動収入計比 29.1% (前年度 25.9%) と増加している。また、基本金組入(取崩)後の当年度収支差額が 578 百万円となり、2 年連続のプラスとなった。

借入金残高は、237 百万円となり順調に返済が進んでいる。財務体質の強化を目的として、今年度より特定資産への繰入をこれまでの約 100 百万円から約 600 百万円に増額したことから、特定資産の残高合計が 2,672 百万円となった。

##### ・事業活動収入及び支出の推移(単位:百万円)



## 2) 資金収支計算書

学生生徒等納付金収入、手数料収入は決算による確定。補助金収入は文化芸術振興費補助金の決定に伴う増加。付随事業・収益事業収入は受託事業収入契約期間の変更に伴う減少。前受金収入は新入生の増加及び授業料1年分を前納する者の増加によるもの。資金収入調整勘定は退職金財団交付金収入及び受託事業収入の未収入金の増加による。

人件費支出は決算による確定、教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出については、決算に伴う科目の確定及び支出の厳格化によるもの。資金支出調整勘定は退職金等、期末未払金の増加によるもの。

結果、翌年度繰越支払資金が2,118百万円となり、前受金収入との差異が1,426百万円となった。

## 3) 活動区分資金収支計算書

教育活動資金収支差額が1,008百万円とプラスになっており、教育活動での資金確保はできている。

施設整備等活動資金収支差額が267百万円のマイナスとなっているのは、空調設備の更新、照明設備の更新、池の修理等の環境の等環境整備を行ったことによるもの。

その他の活動資金収支差額が655百万円のマイナスとなっているのは、教育環境整備のために調達した資金の返済及び特定資産への繰入によるもの。

教育活動資金収支差額と施設整備等活動資金収支差額とその他の活動資金収支差額の合計では、86百万円のプラスになっており、当該年度の資金収入により必要資金全額を賄えている。

## 4) 事業活動収支計算書

教育活動収入が予算対比で8百万円増加したことに加え、支出抑制に努めた結果、経常収支差額が572百万円となり、予算対比で149百万円増加した。さらに、予備費の未消化分を合わせて、基本金組入前当年度収支差額が578百万円と事業活動収入計比15.2%となった。基本金組入前当年度収支差額が良好だったことに加え、大型の資産除却があり基本金組入額が0円となったことから、当年度収支差額が578百万円と高い水準となった。キャッシュフローは1,110百万円と事業活動収入計比29.1%となり、事業活動収入計は予算対比10百万円増の3,812百万円となった。

## 5) 貸借対照表

財務体質強化をめざし特定資産を600百万円増加させ、2,672百万円とした。長期及び短期借入金の合計は118百万円減少し、残高は237百万円となっている。